



《共通事項》

◆生育状況について

1. 管内の生育状況〔満開日〕

品目	品種	令和5年	令和6年
杏	新潟大実	3月26日	4月 6日
プルーン	くらしま	4月 4日	4月14日
梨	南水	4月 8日	4月17日

◆乾燥対策について

降雨なく乾燥が続く場合は、土壌が乾く前に定期的なかん水(1回に20~30^{リットル})を行う。

◆梅・オウトウの栽培日誌の提出について

梅・オウトウ出荷予定者は、下記期日までに各果樹技術員まで提出されますようご協力下さい。

1. 提出期限:《梅 ⇒ 5月15日(水)まで》 《オウトウ ⇒ 5月24日(金)まで》

2. 提出方法:役員さんを通じてか、直接流通センター・共選所まで提出下さい。

3. 留意事項

①栽培日誌の内容を果樹技術員がチェックし、法的に問題がある場合は販売できません。

②提出されず出荷された場合は、安全性が確認できないので返品の対象になります。また、内容が確認できるまで荷受けは行えません。期日に遅れないようお願い致します。

《プルーン・すもも》

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期:5月13日(月)~5月19日(日)

散布日 月 日

2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
㊤ダイアジノン水和剤	100g	シンクイムシ類	21日

3. 散 布 量:10a当り=400ℓ以上

4. 留意事項

①りんご(生理落果)やもも・ネクタリン(葉薬害)に農薬飛散しないよう十分注意する。

②ダイアジノン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g)又は㊤オリオン水和剤 1,000 倍(水 100ℓ 当り 100g)を使用してもよい。

③降雨が多い場合は、トレノックスフロアブル 500 倍(水 100ℓ当り 200ml)を加用散布する。

◆これからの薬剤散布の注意点について

散布の際、ノズル噴口は1.0mmを主体に使い、圧を上げ細かい霧でタツプリかける。

鉄砲噴口等でジャージャーかけると、ブルームが流れ、雫がたまと薬斑になる。

◆あら摘果について

摘果は早いほど果実肥大はよいが、第2期の生理落果(不授精による)が開花後2~4週間後にあるため、実止まりを確認してから実施するのが基本。さらに第3期の生理落果が6月にあり(果実相互、果実と枝葉の養分競合による)、摘果が遅れるとさらなる生理落果につながるため、遅れないように実

施する。着果量の多い品種(スタンレイ・ツアー等)や結実良好であった品種・樹勢の弱い樹等は予備摘果に重点を置く必要がある。くらしまプルーンは、不受精果が判断できるようになったら早期に摘果。

1. 時期 小指大の時(満開後30日後頃)

①すもも(貴陽) ⇒ 5月上中旬頃(平坦部) プルーン(スタンレイ) ⇒ 5月中旬頃(平坦部)

2. 程度

①樹勢の弱い樹………2年枝の摘果を行い、果実肥大に努める。

②生理落果《少》品種………あら摘果に重点(仕上げ摘果の2割り増し程度残す)を置き、仕上げは軽度にする。(スタンレイ、アーリーリバー、ベイラー、ソルダム等)

③生理落果《多》品種………あら摘果は軽度(仕上げ摘果の3～4割程度多めに残す)にし、2年枝を中心に摘果する。(グランドプライズ、トレジディ、サンタローザ等)

2. 方法(受精した果実は緑色が強く、不受精果は黄緑色を呈する。)

①緑色で正常な果実を残す。病害虫果・奇形果・小玉果・障害果などを落とす。

②下から横向きの果実を残す。上向き果は、風による障害・日焼等で果皮が荒れやすいので落とす。

◆摘果の程度

《プルーン》

1. 小玉品種⇒5cm に2果(3cm間隔)、1短果枝に1果(少ない場合は2個鈴成り)

2. 中玉品種⇒10cm に3果(3～5cm 間隔)を目安に行う。(2～3短果枝に1果)

3. 大玉品種⇒10cm に2果(5～6cm 間隔)を守る(3～4短果枝に1果とする)

《スモモ》

1. 中玉品種⇒1短果枝に1果を基準とし10cm に1果を目安に行う。

2. 大玉品種⇒着果間隔で10～15cm に1果残す。

◆プルーン・すももの仕上げ摘果講習会開催について

下記の日程により講習会を開催します。都合のよい会場で受講して下さい。

開催日	曜	時間	集 合 場 所	担当
5月14日	火	午前 9:00	渡辺 浩様園 (御厨)	松橋
		午前11:00	荒井袈裟男様園 (小市橋近犀川河川敷)	松橋
5月16日	木	午前 9:30	柴田孝昭様 (塩崎) 前回の畑に集合	徳武・寺澤
		午前10:00	駒村和久様園 (綿内東公園近く)	松沢

※上記以外の地区については個々に対応しますので果樹技術員までお問い合わせ下さい。

《な し》

◆第5回薬剤散布の実施について

1. 散布時期:5月15日(水)～19日(日) 散布日 月 日

2. 調 合 量:水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病虫害	収穫前
(展 着 剤)	10ml	—	—
㊟ダイアジノン水和剤	100 g	シクイムシ類・ハマキムシ類・カイガラムシ類・ナシガバイ	14 日
オキシラン水和剤 34	166 g	黒斑病・輪紋病・赤星病	3 日

3. 散 布 量:10a当り=棚栽培4000/立木栽培4500 以上

4. 留意事項

①この時期、西洋ナシはサビ果の発生を助長しやすいので乳剤・展着剤は使用しない。

②ダイアジノン水和剤に代えて、サイアノックス水和剤1,000 倍(水 1000 当り 100g)を使用してもよい。

◆南水の新梢管理について

1. 不定芽の除芽を行う。
2. 副芽が伸びる場合は1本にする。
3. 誘引作業の実施。
4. 主枝先端の新梢は垂直支柱にそって誘引する。(秋までの伸びが良くなる)

◆西洋ナシの仕上げ摘果の実施について

結実の良い「ラ・フランス」等の仕上げ摘果は、満開後40～50日までに行う。

「ル・レクチェ」等は生理落果が見られるので、落果が終わり次第(満開後30日頃)摘果を始める。

表1 【西洋ナシ主要品種の着果量の目安】

品 種 名	頂 芽 数	摘果時の葉枚数	最終必要枚数
ラ・フランス	4～5頂芽に1果	50枚	60枚
オーロラ、バラード	5～6頂芽に1果	50～60枚	60～70枚

◆日本なしの仕上げ摘果について 　　あら摘果を急ぎ終わらせる

1. 実施時期…満開後45日までに終わらせる (5月下旬頃)
2. 着 果 量…4～5果そうに1果、ただし、1次間伐樹は3果そうに1果とする。

《あんず》

◆第5回薬剤散布について

1. 散布時期:5月15日(水)～5月19日(月) 散布日 月 日
2. 調 合 量:水100ℓ 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
ソ ー ゲ ン	200g (158ml)	ほう素欠乏	—
アンビルフロアブル	100ml	灰星病	7日
Ⓜモスピラン顆粒水溶剤	25g	アブラムシ類	前日

3. 散布量:10a当り=400ℓ以上
4. 留意事項

- ①少雨で乾燥するとほう素欠乏が発生しやすくなる。かん水を行うとともに葉面散布剤の散布を行う。
- ②モスピラン顆粒水溶剤に代えてコルト顆粒水和剤 2,000 倍(水 100ℓ 当り 50g)又は、ⓂイカズチWDG1,500 倍(水 100ℓ 当り 66g)を使用しても良い。



果実への感染の

〔特徴〕

- ・果実及び葉などに白く「うどんの粉」をかけたような症状で、他の病気は降雨等により発病・感染するが、この病害は高温干ばつ時に発生が多くなる。
- ※基本的に葉への感染がほとんど無い
- ・発生初期は白いカビが生えており、感染から時間が経過するとともに褐色から茶褐色に変化する。

《オウトウ》

◆摘果について

1. 摘果の時期は、不受精果などの生理落果が終わる満開3～4週間後までに行う。
2. 1花束状短果枝当り2～3果程度残し、日当りの良い上枝では2果程度残す。

◆第5回薬剤散布の実施について

1. 散布時期: 被覆直前 散布日 月 日
2. 調合量: 水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
㊥スカウトフロアブル	33ml	オウトウショウジョウバエ	前日
オンリーワンフロアブル	50ml	灰星病	前日
(カネマイトフロアブル)	100ml	ハダニ類	7日

3. 散布量: 10a 当り = 10a 当り 5000 以上

《うめ》

◆第4回薬剤散布について〔中梅・大梅〕

1. 散布時期: 5月18日(土)～24日(土) 散布日 月 日
2. 調合量: 水1000 当り ※混用順に記載。

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展着剤	10ml	—	—
イオウフロアブル	166ml	黒星病	前日

3. 散布量: 10a 当り = 5000 以上

4. 留意事項

- ①アブラムシの発生が多い場合は、㊥バリアード顆粒水和剤 4,000 倍(水 1000 当り 25g・収穫前日・年 2 回以内)又はダントツ水溶剤 4,000 倍(水 1000 当り 25g・収穫前日・年 3 回以内)を加用散布する。
- ②汚れ軽減のため、展着剤に代えて、まくびか 10,000 倍(水 1000 当り 10ml)を使用してもよい。

◆小梅の出荷目揃い会開催について

参加される方は、自園の小梅を少量持参下さい。熟度(収穫時期)調査いたします。

開催日	曜	時間	集合場所	担当
5月17日	金	午前9:30	松代総合センター	伊藤

※5月19日(日)より収穫可能なものから、荷受開始となります。

出荷が早まる方は対応しますので連絡ください。

《栽培に関する営農技術員への問合せ》

徳武(篠ノ井西部): 080-1202-0260 / 外谷(篠ノ井東部): 080-8048-6602

※篠ノ井西部は、当面、寺澤・松坂・佐藤・外谷も対応致します。

佐藤(信更): 090-7179-9866 / 伊藤(松代・情報担当): 080-2239-6816

松橋(川中島): 090-4816-6297 / 根津(更北) 080-1203-8576

松澤(若穂) 080-1191-5166 / 寺澤(全域・情報担当・編集): 080-1188-5229

吉澤(全域・情報監修): 090-2543-0365

栽培に関する電話対応は、担当地区関係なく対応できます。園地指導や地区組織関係のお問い合わせは、地区担当までお願い致します。

○果樹のアドバイザー(流通センター長兼務) 松坂(篠ノ井西部) 080-1188-4131

《栽培・販売に関する問合せ》各流通センター・共選所 / 営農販売部(本所): 292-0930

《資材に関する問合せ》各JAファーム・営農資材センター・経済部農業資材課: 299-3311